



第13回山都町支部体協対抗駅伝大会



11月12日に第13回山都町支部体協対抗駅伝大会が開催されました。この駅伝はそよう病院をスタートとし山都町役場をゴールとする11区間19.5kmで争われます。今回は町内各支部体協より17チームの参加がありました。午前10時の号砲とともにスタートし、レース序盤は御岳支部体協が先頭でレースを引っ張っていましたが、下矢部東部体協が追い上げ、9区でトップに立つとそのままたすきをつなげ、見事優勝を成し遂げました。大会当日は晴天に恵まれ、沿道の声援もたくさんあり、大いに盛り上がった大会となりました。



【大会最優秀選手】
下田 将臣さん（下矢部東部体協）



優勝した下矢部東部体協

最終順位

1位	下矢部東部支部体協	1時間9分05秒
2位	御岳支部体協	1時間9分29秒
3位	浜町C地区支部体協	1時間10分29秒
4位	朝日支部体協	1時間10分55秒
5位	清和支部体協	1時間11分46秒
6位	菅尾支部体協	1時間11分57秒
7位	通潤支部体協	1時間12分12秒
8位	東竹原支部体協	1時間12分17秒
9位	中島東部支部体協	1時間12分42秒
10位	二瀬本支部体協	1時間14分35秒
11位	上差尾支部体協	1時間14分37秒
12位	下名連石支部体協	1時間15分45秒
13位	馬見原支部体協	1時間15分47秒
14位	小峰支部体協	1時間15分52秒
15位	中島西部支部体協	1時間17分36秒
16位	浜町B地区支部体協	1時間18分35秒
17位	中島南部支部体協	1時間18分43秒

区間賞一覧

区間	氏名	タイム
1区(2.2km)	藤本 遼人 選手 (菅尾)	7分29秒
2区(0.9km)	高野 藍沙 選手 (馬見原)	2分49秒
3区(2.4km)	橋本 亜依 選手 (浜B)	8分22秒
4区(2.0km)	中村 光佑 選手 (朝日)	6分04秒
5区(1.8km)	後藤 悠希 選手 (東竹原)	5分52秒
6区(1.2km)	藤川 康喜 選手 (下東)	4分01秒
7区(0.6km)	上田 浩 選手 (下東)	1分41秒
	石田 雅之 選手 (中東)	
	枝尾 美一 選手 (小峰)	
8区(3.1km)	後藤 将希 選手 (東竹原)	8分56秒
9区(1.9km)	下田 将臣 選手 (下東)	6分35秒
10区(1.2km)	藤原 義嗣 選手 (清和)	4分06秒
11区(2.2km)	井手 雅斗 選手 (浜町C)	7分28秒

区間新記録



演習林の間伐材を使用した通潤橋の模型と、制作した矢部高校緑科学科の生徒たち。通潤橋の製作過程が分かります。

11月17日・18日の2日間にわたり、清和文楽館を主会場に「全国石橋サミットinくまもと」が開催されました。このサミットは、全国から石橋ファンや研究者などが集い、石橋の魅力や役割などについて熱く語り合うイベントで、今回は2日間でのべ300名の方が参加されました。

地震被害により修復中の通潤橋の様子や、緑川流域の石橋群の素晴らしさ、そして石工養成講座の大切さと期待について語り合われました。

サミットでは、通潤橋周辺や美里町にある二俣橋など緑川流域にある石橋をめぐる企画も行われ、震災による被害の状況や修復方法、そして被害にあったからこそ分かった橋内部の様子についての説明などもありました。

2日目は、熊本県立劇場の館長を務める姜尚中氏による「くまもと未来創造」くまもと石橋文化を後世に

くをテーマに記念講演が行われました。講演では「石橋を造った人々の思いや、利用することによってそのありがたみを感じてきた人々と共に、石橋がそこにある。」とされ、伝統文化の継承や、地域活性化の重要性について話があり、参加者はとても興味深そうに聴いていました。（主催・緑川流域広域事業実行委員会）



熱い思いが語られたパネルディスカッション



修復中の通潤橋を見学する参加者



姜尚中氏による記念講演

石橋と共に歩む 熊本地震を越えてー 全国石橋サミットinくまもと 山都町にて開催

National
Ishibashi
Summit
in KUMAMOTO